



読書への支出



- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

夏の暑さも和らぎ過ごしやすい季節になるとともに、秋は「読書の秋」、「スポーツの秋」、「食欲の秋」などと呼ばれるように様々な活動意欲をかき立てられる季節でもあります。また、最近では、芥川賞が目されたこともあり、読書への関心が、今後高まってくるのではないのでしょうか。

そこで、今月は「読書」への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

ここでいう「読書」とは、「新聞」、「雑誌（週刊誌を含む）」及び「書籍」を合計したものです。なお、家計調査では、タブレット端末等を使って読まれる電子書籍は、「書籍」には含まれず、「他の教養娯楽サービスのその他」として分類されています。

「読書」への支出は減少

「読書」への年間支出金額は減少する傾向にあり、平成26年は44,464円と、10年前（53,652円）と比較して、17.1%減少しています（図1）。

内訳をみると、「雑誌（週刊誌を含む）」の減少幅が最も大きく、10年前と比較して26.5%の減少となっています。次いで「書籍」が20.8%の減少、「新聞」が14.9%の減少となっています（図2）。

図1 「読書」への年間支出金額の推移

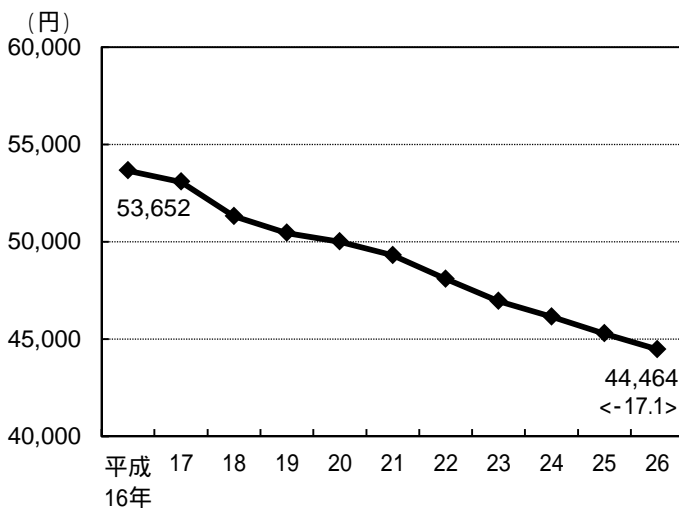
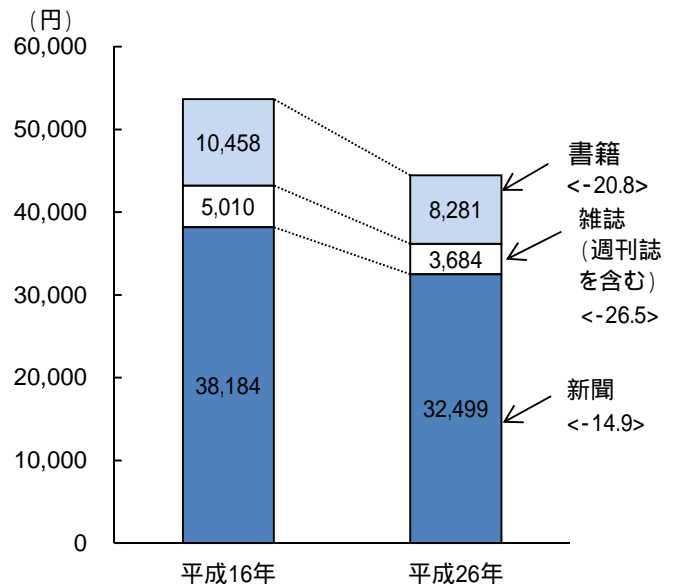


図2 「読書」の内訳の年間支出金額の推移



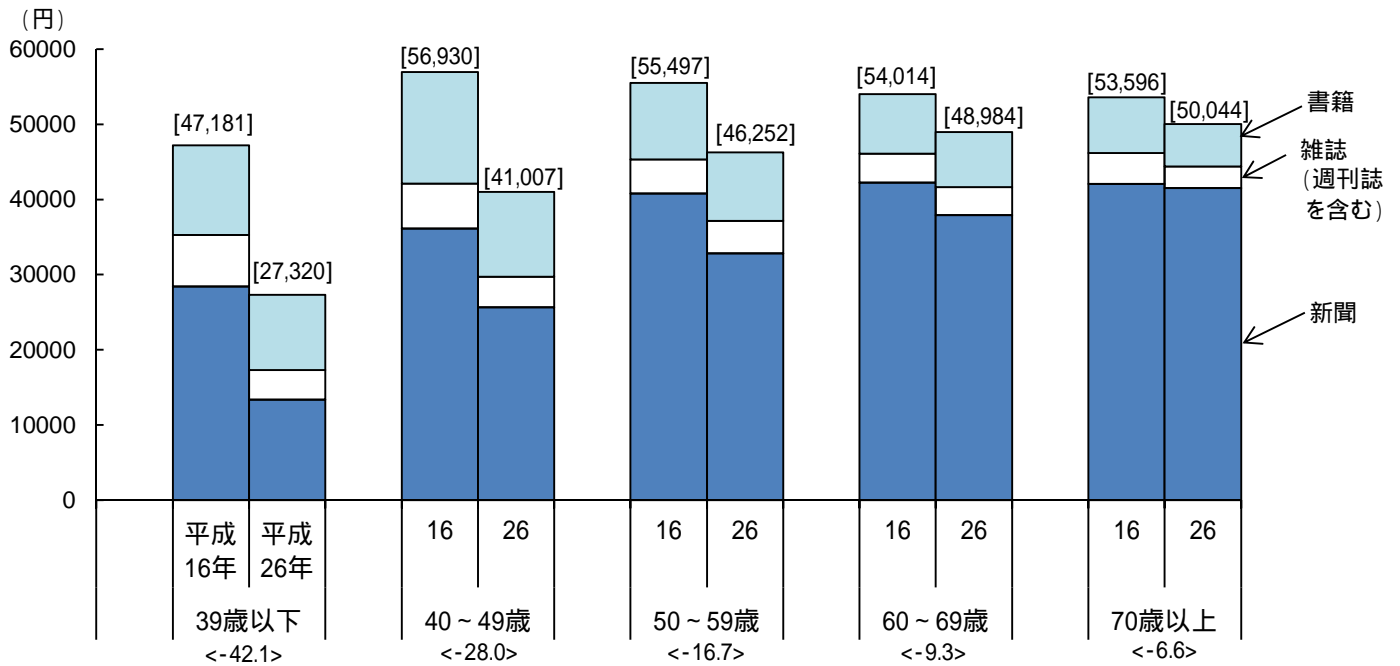
(注) <>内の数字は、10年前(平成16年)に対する年間支出金額の増減率(%)

「39歳以下」の減少幅が最も大きく10年間で約4割減少

世帯主の年齢階級別「読書」への年間支出金額（平成26年）をみると、10年前（平成16年）と比較して、各年齢階級とも減少しています。最も減少幅の大きい年齢階級は「39歳以下」で、42.1%の減少となっています。また、年齢階級が低くなるに従って、減少幅は大きくなっています。

なお、「39歳以下」における「読書」の内訳をみると「新聞」が半分以下に減少しています（図3）。

図3 世帯主の年齢階級別「読書」への年間支出金額の推移



(注1) []内の数字は、内訳の合計金額である「読書」への年間支出金額

(注2) <>内の数字は、各年齢階級における10年前(平成16年)に対する「読書」への年間支出金額の増減率(%)

「電子書籍」への支出が最も多いのは「40～49歳」

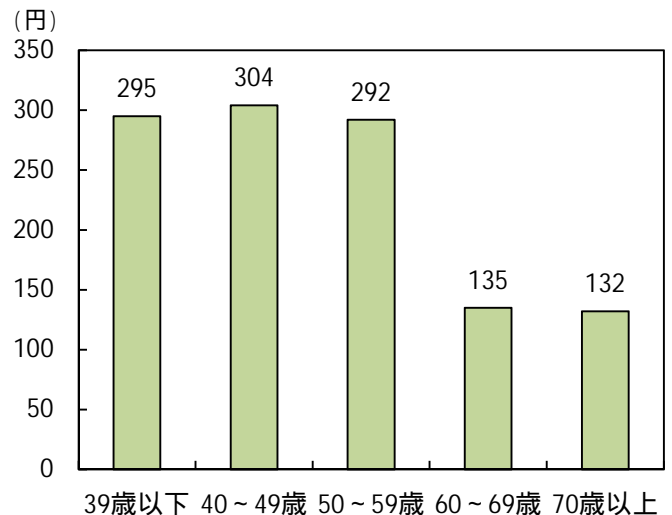
近年、読書の手段として、紙媒体だけでなく、タブレット端末等の電子機器が用いられる機会が増えており、電子書籍が普及してきているとみられます。

家計調査を補完する家計消費状況調査¹では、平成27年1月よりインターネットを利用して購入した商品やサービスを項目別に調べ始めていますので、その結果から「電子書籍²」への支出金額を世帯主の年齢階級別に見てみましょう。

調査開始から半年間の合計支出金額は、「60歳以上」の各年齢階級では約130円であるのに対して、「60歳未満」では約300円と2倍以上になっています(図4)。



図4 世帯主の年齢階級別「電子書籍」への合計支出金額(平成27年1～6月計)



資料:家計消費状況調査

1 家計消費状況調査は、民間の調査機関を通じて、毎月実施しています。

2 ここでいう「電子書籍」とは、パソコンや携帯電話、タブレット型端末などで読むタイプの書籍(新聞、雑誌などを含む)であり、印刷物になっているものは除いています。